

会 議 録

会 議 の 名 称		令和4年度 第2回豊中市公共施設等有効活用委員会	
開 催 日 時		令和5年（2023年）3月13日（月）18時～19時	
開 催 場 所		地域共生センター	公開の可否 ☒ 可・不可・一部不可
事 務 局		都市経営部 創造改革課	傍 聴 者 数 1人
公開しなかった理由			
出席者	委 員	○公共施設等有効活用委員会委員5名 青木朋美委員・木多道宏委員・佐野こずえ委員・深澤俊男委員・和田聡子委員 （五十音順）	
	事 務 局	榎本部長・橋本主幹・松原補佐・上保主事・岩崎	
	そ の 他		
議 題		1. 公共施設等総合管理計画の進捗 2. 南部地域の学校跡地活用スケジュール 3. その他	
審議等の概要 （主な発言要旨）		別紙のとおり	

審議等の概要（主な発言要旨）

発言者	内容
< 開会 >	
< 成立要件の確認 >	
事務局	豊中市公共施設等有効活用委員会規則第 6 条第 2 項に基づき、委員会は、委員の過半数の出席を必要としている。本日は、委員総数 6 名中、5 名の委員の出席があり、成立要件を満たしている。 （資料 1 に基づき委員の欠員補充について説明）
< 案件 1. 公共施設等総合管理計画の進捗について審議 >	
事務局	（資料 2 に基づき説明）
委員	庄内コラボセンターと庄内さくら学園を内覧した。 庄内コラボセンターは賑わっており、高齢者から未就学児まで、多くの人の姿があった。特に子育て世代の姿が見られる点がよかった。 庄内さくら学園は開校前の内覧だったため、1,000 人規模の児童生徒が入ったときのイメージができなかった。特にトイレなどの共用部分は足りるのか気になった。 また、駅等から施設までのルート案内が必要ではないかと思った。 天候により足元が悪い日や夜、休みの日の雰囲気はどうか見てみたい。
事務局	庄内さくら学園の共用部分は計算上足りるはずだが、運用してみないとわからない部分もある。 庄内コラボセンターまで案内誘導する道路標識などは、随時必要に応じて追加していきたい。
委員	庄内コラボセンターや庄内さくら学園の利用価値を今後高めてもらいたい。 市民活動情報サロン跡の活用について、庄内コラボセンターとうまく連携できると、駅構内ということもあり PR 効果は高い。また、魅力発信拠点について、現段階でどのような活用を考えているか。
事務局	庄内コラボセンターに移転した市民公益活動支援センターは、ただ移転するだけでなくこれまでよりスペースも広く取り、市民活動をさらに応援していくような施設となっている。 市民活動情報サロン跡については、駅構内という場所をどう活かすかが重要と考えている。現在のエキスタとよなかの場所はガラス張りとなっており、その先に広いデッキスペースがある。たくさんの人の目に付く場所なため、ここを魅力発信の拠点とすることにした。内容はまだ検討中だが、市がイベントをしたり、産業振興の観点でいうと市内中小企業の PR の場としたりすることも考えらえる。行政だけではなく、市民などにも使ってもらいにぎわい創出につなげたい。図書サービスポイントについては、仕事帰りに本を借りられるなど、これまで図書館を利用することができていなかった層をターゲットにしたい。また、同じ阪急沿線である庄内コラボ

発言者	内容
	センターと連動したイベントなども考えていきたい。
委員	よく考えられていることがわかった。図書サービスポイントについては、eBook や IT を活用した予約システムを取り入れ、利用価値の向上を図っていくことを期待している。
委員	庄内さくら学園と庄内コラボセンターをデッキ部分で繋ぐことで、どういうふうに相互利用されるのか。
事務局	デッキを渡って庄内さくら学園と庄内コラボセンター間を行き来することは通常施錠しておりできない。 どちらの施設も大きな防災拠点であり、災害時にデッキ部分を活用することを想定している。
委員	セキュリティの関係上仕方ないこともあるが、2 施設が連携したイベントを企画できると、デッキ部分が活きてくるのではないかな。
委員	イベント企画の意見については大賛成である。デッキ部分を有効活用しなければもったいない。ただ、セキュリティを考慮することも重要である。デッキを活用することでさらににぎわいが創出されるのではないかな。 豊中駅のデッキも、有効活用によりにぎわいを創出できる可能性がある。
委員長	よく近隣住区論などと言われるが、同じような理論は 100 年前から様々な人が言っている。学校とまちづくりに必要な施設が繋がっていることにより、子どもたちがまちづくりの体験などができると良いのではないかな。地域の大切な理念や考え方を、世代を超えて受け継いでいくことが、本当の近隣住区と言われている。
< 案件 2. 南部地域の学校跡地活用のスケジュール >	
事務局	(資料 3 に基づき説明)
委員	サウンディング調査の後の動きはいかがか。
事務局	令和 3 年度のサウンディング型市場調査以降も個別で様々な企業にヒアリングを行っている。 地域とも対話しながら、段階的に民間利活用すべきと判断した。
委員	そろそろアフターコロナで動きが活発になってきている事業者もあるかと思う。そういった事業者とマッチングした方が良い。
委員長	各小中学校の暫定利用については、うまく進んでいるか。
事務局	令和 5 年度には教育財産ではなくなるが、市のスポーツ振興としてグラウンドと体育館を暫定利用する。これまでの地域利用を継続できるよう計画している。民間活用後のグラウンドと体育館の利用については、庄内さくら学園の利用状況なども見ながら、グラウンドなどを残していくべきかについて検討を進めていく。
委員長	計画、検討を継続することは大変だが、続けてほしい。
< 案件 3. その他 >	
事務局	(公共施設再編の取組みや本委員会の事務局が、創造改革課から資産管理課にかわることを説明)

発言者	内容
< 閉会 >	